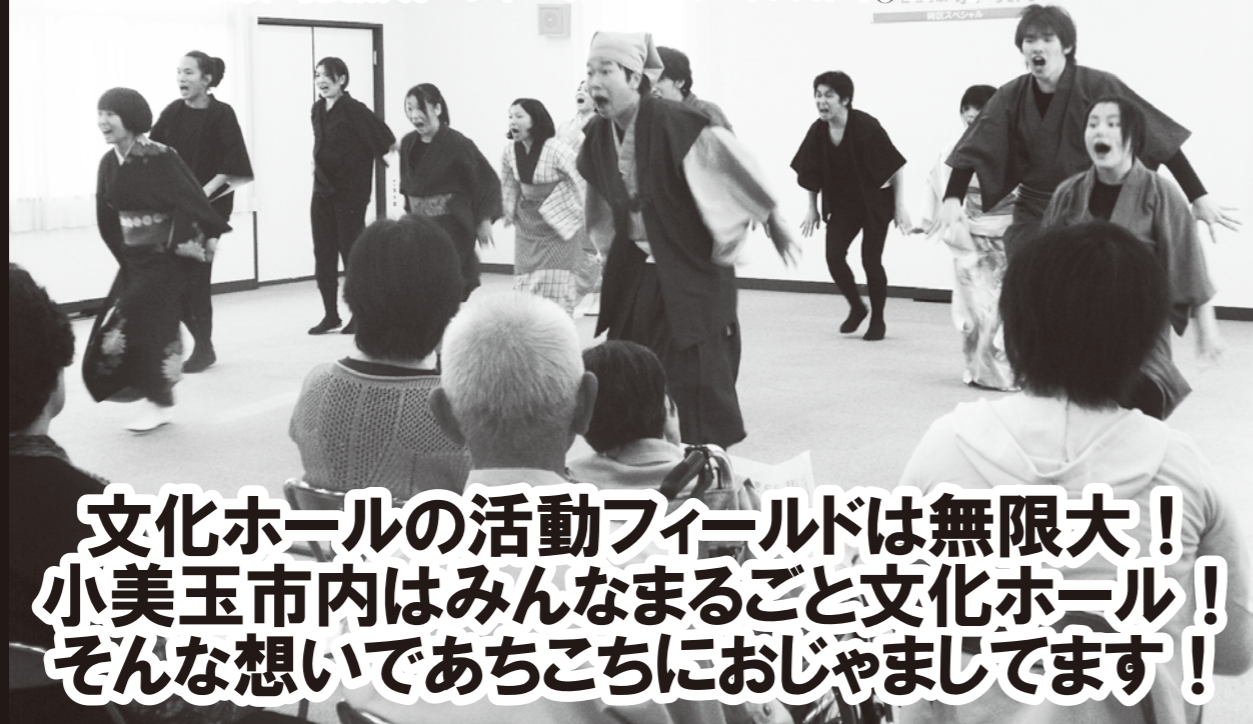


地域アクティビティ事業初の「演劇アウトリーチ」

## 合唱寸劇 水戸黄門

出演：桜美林大学パフォーミングアーツ・インスティテュート



文化ホールの活動フィールドは無限大！  
小美玉市内はみんなまるごと文化ホール！  
そんな想いであちこちにおじゃましています！



2011.10.1 岡区

2011.10.2 老人ホーム清風園

### REPORT 地域アクティビティ事業 【岡区/清風園】

悪を懲らしめる痛快時代劇！  
「合唱寸劇 水戸黄門」

桜美林大学生による合唱寸劇で、演目はなんと『水戸黄門』。どんな公演かしら？とワクワクして待っていると、「人生楽ありや苦もあるさ」と大きな声でスタート。彼らの若々しくハツラツとした声・演技・動きに魅了されてしまいました。また、会場の人たちと歌う劇中歌も楽しく、私もいつの間にか一緒に歌っていました。一体感を感じさせる演出、とても素晴らしかったです。

＜みののふれ編集部 小原 エミ＞

### 地域アクティビティ事業って？

文化ホールが単なる集客施設から脱却し、文化のまちづくりを行う拠点として地域社会全体に積極的に働きかける手法の一つとして行う「出前コンサート&交流体験」。従来の興行的公演では、対象がもともと音楽などに興味がある住民であるのに対し、そうした対象に限られないのが特徴。

### 桜美林大学パフォーミングアーツ・インスティテュート



桜美林大学の舞台芸術研究所である桜美林大学パフォーミングアーツ・インスティテュートでは、プルヌスホールが「大学の中にある劇場」という特殊な環境であることを生かし、学生の授業や課外活動で利用するだけでなく、「地域の文化活性を担う劇場」として研究・実践し、市民に働きかけていきます。『地域に開かれた劇場』を目指し、プルヌスホールを拠点とした市民参加企画『銀河鉄道の夜』や小学生を対象としたワークショップ企画『劇場で遊ぼう！』シリーズなどの自主事業、地元高校などとの共催事業、福祉施設を中心としたアウトリーチ事業を展開しています。

### REPORT

大震災という逆境を乗り越えて、ついに完成  
「ヒーロー～時が経っても色褪せない～」

2011.9.23,25 Minole



お客様から「後半ずっと涙が止まりませんでした」という声が聞こえてきた。確かに私自身、住民ミュージカルでこんなにも感動したのは生まれて初めて。5人の子どもたち一人一人が大人や社会に振り回されながら、小さな胸に悩みを抱えつつも、未来に希望や夢を持ち、それぞれの道を

歩んで生きていく。この公演が私の子どもの頃の夢を思い出させてくれた。なんだか懐かしくなり、昔の友人と語りたくなってしまった、そんな夜だった。

＜みののふれ編集部 渡邊 高明＞

### REPORT

各ホールに属する住民組織すべてにプレゼン！  
「腑に落ちる仕掛け～小美玉市まるごと文化ホール計画～」

2011.9.27 Apios



アピオス運営の軸となる「小川文化センター活性化委員会」取材しました。側から見れば普通の会議ですが、この日は中身が違いました。完成した『小美玉市まるごと文化ホール計画』の説明を受け、「ポジティブ・フィードバック(前向き思考)」で会議を進めていたからです。従来は「問題発見(悪口や不満の言い

合い)からの問題解決」が主流でしたが、これからはこの考え方。本日の議題は先日行われた「おやじバンドコンテスト2011」。今後の方向性をポジティブ・フィードバックで議論しました。来年はさらにパワーアップした「おやじバンドコンテスト」が見られるかもしれません。

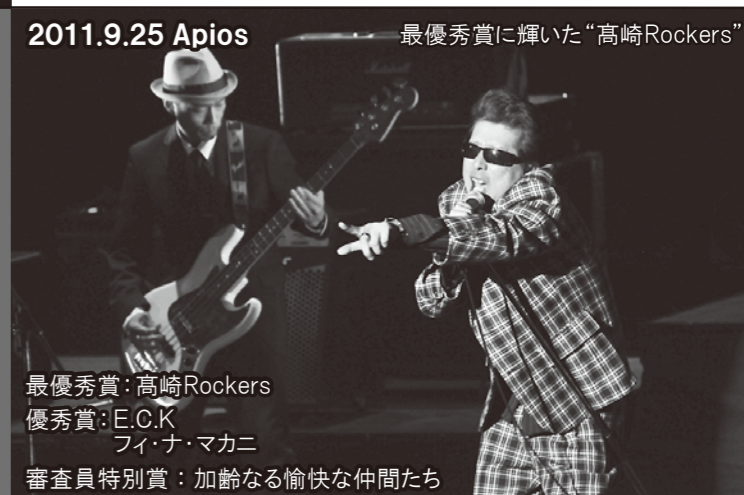
＜みののふれ編集部 酒井 和美＞

### REPORT

輝くおやじ、再び。  
「おやじバンドコンテスト2011」

2011.9.25 Apios

最優秀賞に輝いた“高崎Rockers”



最優秀賞：高崎Rockers  
優秀賞：E.C.K  
フィナ・マカニ

審査員特別賞：加齢なる愉快的仲間たち

今年で2回目の開催となる「おやじバンドコンテスト2011」。出演者の方からは震災の影響で練習不足との声も聞かれました。しかし、演奏が始まるとロックからハワイアンまでジャンルはぜんぜん違いますが、それぞれの想いが舞台と応援団とで一つになり、力強い熱気が伝わってきま

した。80歳に手が届く方もいましたが、背筋をピンと伸ばし楽しんで演奏している姿はもはや30代にしか見えない。カッコいい輝くおやじたちの熱い姿にとっても感動しました。

＜みののふれ編集部 特派員 栗原 恵子＞

### REPORT

みの～れ10歳記念事業ムービーチーム企画  
「未来発見ワークショップ」

2011.10.10 Minole



「未来発見ワークショップ」。いったい何をやるのか不思議なタイトル。大きな年表の紙と、見慣れない本場の撮影用のレール。みの～れの過去と未来を語るみんなの姿を撮影して、みの～れの10歳記念ムービーにする企画だ。自己紹介で会場の空気が一気にほぐれ、和んだ中から掘り出される

みの～れと自分の過去。それぞれの想いで年表が次々と埋まる。それぞれのこれまでの10年。そして、それぞれの未来像が個性的でおもしろかった。来年4月のムービー完成お披露目がとても楽しみだ。

＜みののふれ編集部 特派員 沼田 弘樹＞